

2025 年 11 月 29 日
国際委員会
堀川

ワールドセーリング年次総会報告

2025 年のワールドセーリング年次総会が 11 月 2 日から 8 日にかけてアイルランドのダン・レアリーで開催されました。世界中から 400 人以上の代表者が集まり、「イノベーション」「サステナビリティ」「インクルーシブ（包摂性）」を中心に、セーリングの未来について議論が交わされました。

日本からは、萩原ゆきさん（Para World Sailing 委員）、斎藤愛子さん（Events Committee 副委員長、Youth Events Committee 委員）、田中正昭さん（Team Racing Committee 委員）、鈴木祥子さん（Special Regulations Committee 委員）が現地で各委員会に出席し、堀川が総会にリモート参加しました。

[総会決定事項]

◆ 副会長選挙

女性副会長に 2 名の欠員ができていたため、最終日(8 日)の年次総会で補欠選挙が行われました。2 つの枠に 6 名が立候補しました。日本から斎藤愛子さんが立候補していましたが、残念ながら当選はかなわず、以下の 2 名が当選しました。
これをもって World Sailing の理事会は Constitution で定められている 50・50 の男女比率が満たされることになります。

Dr. Sophia Papamichalopoulos (CYP)

医師で WS Medical Commission メンバー

キプロスで Winds of Change という組織を立ち上げ、セーリングを通じての社会活動(ギリシャ系・トルコ系に分断されたキプロスでの民族融和貢献を目指す)に携わる。

Corinne Migraine (FRA)

外洋レースで活躍

FFV(フランス・セーリング連盟)副会長など歴任

現 WS Oceanic & Offshore Committee 副委員長

◆LA2028 の競技フォーマット

IOC や OBS(Olympic Broadcast Service)などからの、フィニッシュした順でメダ

ルが決まるようすべしという圧力の一方、オープニング・シリーズの成績が反映されず、メダル・レース 1 発でメダルが決まってしまう理不尽さとを、どう折り合いを付けるかで、イベント委員会に置いて検討が進められていました。結果として、ボード(ウィンド・ファーフィンとカイト)とボートとで二通りのメダル・レースのフォーマット、および、それらを今後様々な大会において試行した後、2026 年 4 月末に最終決定することがイベント委員会から提案され、年次総会で承認された。

◆ 外洋活動の WS における各委員会との連携強化

Oceanic & Offshore Committee のメンバーに関して、他委員会 (Special Regulations Sub Committee、Growth of Sailing Committee、Racing Rules Committee 等) への参加枠が設置され、ガバナンス上連携が強化された。

◆ 会費の支払い遅延 MNA

期限までに Membership Fee の支払いができていない MNA s s についての会員資格の取り扱いに関して、長期にわたって議論がされており、Constitution の改正案が提出されたが、議論が熟していないとして、決議延期。

各委員会からの詳細に関しては別途国際委員会のページに後日掲載予定をしております。

堀川